

Z会進学教室 葛西通信 5月号

葛西教室に通う本科生の皆さんは、以下の四点を心がけるようにしましょう。

- 1 進学塾に通う中学生としての自覚を持つこと。
- 2 信頼の土台となるあいさつをきちんとすること。
- 3 書くことを大切にし、ノートをしっかりとること。
- 4 自習室を上手に利用し、自分で考えてもわからないことは遠慮なく先生に質問すること。

葛西教室より

今月号では、この春東京大学に進学した葛西教室卒業生の合格体験記と、新スタッフからのご挨拶をお届けします。中学生も高校生も、必読です！

「映画のような5年間」

葛西の民 D.S

つい数週間前まで重くのしかかっていた受験のストレスが取れ、格闘の相手が花粉へと変わった元高3です。やっぱり受験は何回やっても難しいですw。自分は葛西の歴史に残る受験生だと自負しているし、先生方も認めてくれるでしょうw。そんな自分も高校、大学の2回の受験を通して色々と感じることがあったので、是非葛西で栄冠を目指す後輩と共有できたらと思い、これを書きました。

前半は自分の体験記である本編の「受験ストーリー」と、所々に入る小話「ちょっと休憩」で構成されています。



↑入学式後に赤門にてイキる筆者の図

～中学生へ～

受験ストーリー Scene#1 敗北

スタート（春）

月例テストでこけなかったので、自分は最後まで一番上のクラスで阿部先生、黒磯先生、そして長妻先生と戦うことができた。阿部先生は毎週都立自校作の問題で実戦演習を始め、そのスピードや生徒たちへの煽りにもますます磨きがかかっていた。演習の順位は毎週黒板に上から下まで書かれ、匿名であるものの嫌でも自分の立ち位置をわからされた。でも数学に対して苦手意識はなかったので楽しんで授業に臨めた。自分は帰国子女だったので、受験英語の対策は中3からで十分だと思っていた。黒磯先生の授業はわかりやすく面白く、何よりディズニーの雑談が多いw。文の内容は取れたのであとは文法事項を詰め込むだけだったから楽だった。中3にして初めて長妻BOSSが教室に降臨。その授業は残念ながら、当時の自分はなんとなくしか理解できなかった。筆者が作者が何を伝えようとしているのか全くわからない。先生、すいませんw。中3からは理社もとり始めた。齋藤先生は一見のほっとしているがその授業は丁寧で、おかげで理科を嫌いにならずに済んだ。恵下先生は社会ということもあってとにかく板書のスピードと量が凄い！話も所々ネジが外れていて面白い(いい意味です)。年号などの語呂合わせは独特で、理系の今でも覚えているものもいくつかあるくらいw。課題は絶望的な国語と社会の暗記くらいかな。

ちょっと休憩 ～珍事件（夏）～

自分は受験だからといって友達との遊びを我慢したりしたくなかった。もちろん勉強もしてはいたけど、まだ受験生ではなかった。ある時男女2人ずつで映画を観に行こうという話になった。その日は午前中理社の夏期講習で、終わったあと急いで西葛西で友達と合流、そのまま電車で妙典に向かった。すると



葛西駅で見慣れた顔が。齋藤先生、こんにちは。向こうもこちらに気づいたが特に何も言わないから自分も気にしていなかった。次の数学の授業の日、阿部先生が授業中に自分が女をたぶらかしてると言い出す。おいおい齋藤先生、何を言いふらしとんねんww。そして阿部先生もそんなことをネタにするな。このいじりは高3の直前期まで続いた。後からわかったことだが、あれは女子の片方が自分じゃない方の男子が気になっていて企画したものだった。おれは人数合わせか。マジでなんやねんw。

ちょっと休憩 ～特等席～

秋のある日。やばいやばい授業に遅刻する！！うわ～ギリギリにきたから一番前しか空いとらん。しかも今日は阿部先生やないかい。恐ろしすぎるわ！と思ったらあれ？板書も見やすいし声もよく聞こえるし良いことだらけやん。こうしておれは高3まで確約された、絶対に埋まらない特等席を手に入れた。

危機感、そして決意（冬）

社会はまあまあやっているし国語は相変わらずよくわからないけど、人より英語で稼げるからそれでカバーする、それが当時考えていた自分の受験プランだった。しかしここにきて他の人の数学が伸び出した。そこそこできたこともあって気が抜けていた自分はもちろん、相対的に落ちる。これでは受験プラン通りにいかない。ここでやっと自分は受験生になることを決めた。毎日自習室に11時まで通い詰め、数学も阿部先生がこっそり入手した教材と必死に向き合った。周りにいつも一緒に残ってくれた仲間がいたのも大きかった。わからないところを聞き合ったり、阿部先生が早すぎるなどの悪口(w)も言い合うこともできた。中学生の頃なんて、与えられたものをしっかりこなしていけば力はずく。周りの「できるやつ」を見ているとなおさらそう感じた。それに気づいて素直になるまでに時間がかかってしまった気がするが、おかげでまた数学の順位を取り戻すことができた。

一番やさしかった先生（直前期）

長妻先生は過去問の添削などで自分の国語力が*放送禁止用語*なのを知っていただろう。それでも毎回親身になってアドバイスをくれた。誰もいつか国語の「気づき」がくる、と先生は励ましてくれて、それを信じて最後まで教科を捨てることなく頑張れた。黒磯先生にはフィーリングの通用しない細かな点の確認で助けられた。おっちょこちょいで時には自分がミスを指摘するような先生ではあったけれど、その英語力は確かなもので頼りがいのある先生だった。齋藤先生と恵下先生は最後まで知識を詰め込んでくれた。理社は知っていれば解ける問題が多い分、直前まで伸びる。



ここで再び問題が起こった。数学がスランプに陥り、問題も全然解けない。焦って何をしたらいいかわからないから最終手段(w)、阿部先生に相談した。

あんな厳しいんだから、どんな恐ろしい言葉が返ってくるか...と思っていたら、先生はとても丁寧に自分がFinal Basicのどこをやるべきなのかを示してくれた。おまけに自分が都立に十分合格できると励ましの言葉までくれた。授業では生徒を突き放してばかりの先生もちゃんと自分たちを見てくれていたことに驚き、だからこそ認められたことが他の先生の何倍も嬉しく、自信にも繋がって、そのまま勉強のコンディションとしては良い状態で受験を走り切った。

ついに、「気づき」は来なかった。

受験結果

市川：帰国枠なので三科受験。帰りのバスで周りの会話を聞き古文を読み違えたことに絶望。母曰く青い顔をして帰ってきたらしいが無事合格。

昭和秀英：受験予定の高校の中で一番舐めていたので緊張せずに突破し合格。

渋幕：挑戦校であった上に3日連続受験の疲れもでて惨敗。理科の試験中には睡魔にも敗れたw。

筑附：感触としては全く歯が立たず、途中で萎えてしまったw。言うまでもなく不合格。

日比谷(前期)：難化した国語に動揺。元々苦手なため自分だけでできていないと勘違いし、引きずって数学もやらかす。英語と理社はいつも通りとったつもりだったが不合格。成績開示をすると国数と理社はそこまでひどくないが、英作文が語数足らずで2問丸々0点という事件が。合格者最低点との差は5点もなかった。

伝説の日比谷(後期)：元々内申美人じゃなかったのに諦めてはいたが、自分の日比谷への気持ちにけりを付けるために受験。そして落ちるw(2回目)。



高校受験を振り返って

自分は高校受験に特別な勉強法なんてないと思います。与えられた課題、テキストなりプリントなりをこなしていけば自然と力がつく、それだけのものだと感じました。だからみんなもヒーヒー言っただけで諦めず、必死に葛西の先生たちについていって欲しいと思います。それが正解だったかどうかは、みなさんが受験を乗り越えて後から自分の軌跡を俯瞰してみると初めてわかります。

ちょっと休憩 ～受験の後遺症～

日比谷に落ちた後、おれはしばらく家から出られなかった。そんな自分を母が無理やり自転車で連れ出してくれた。気分転換に葛西のアリオに向かう。その途中で、葛西教室の前的大通りで信号待ちをしていると、塾恐怖症に陥っていたおれの目がついに狂う。あれ、あの反対側歩いているの小宮さんじゃね?? 母にそう言ったら笑われた。すれ違う時に恐る恐る顔を見る。全然違う人やないか...



～高校生へ～

受験ストーリー Scene#2 市川高校

ちょっと休憩 ～やっぱりアメリカンジョーク最高や！～

市川高校への進学が決まった後、入学前オリエンテーションで学校を訪れた。いろいろ説明を受けたが、まだ立ち直りきれず気が乗らない。そこで、主に帰国生を対象とした英語の特別授業の存在を知らされる。試験に通れば入れるクラスで、この後体験授業があるらしい。母に行くように勧められるが... おいおいお母さん、おれはもう受験はやめたんだ。いやいやながら、受けてみる。ネイティブの兄ちゃん先生登場。つまらないクロスワード。単語が難しく曖昧すぎて全然わからない。一般クラスで楽しめた方が良さそうだな。最後に先生が1つジョークを言う。

What are the propellers on the plane for?

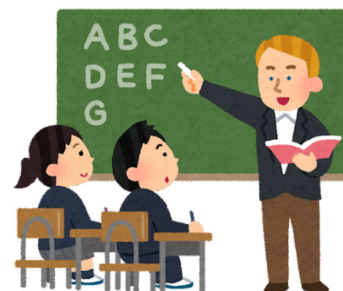
飛行機の先端のプロペラはなんのためについてるんだい？

To keep the pilots cool.

パイロットをクールに（涼しく）保つためさ。

Because when they stop, the pilots begin to sweat!

なぜならそれが止まるとパイロットは汗をかき出すからさ！



周りのウケは悪かったが、自分は心の中で大爆笑。これだよ、ノリ、しょうもなさ、わかった時の快感、全て最高！*Have a nice day!* と残して先生は去っていく。先生このクラス、絶対入ります！！後日、試験を受けて無事高入生で唯一合格しました。

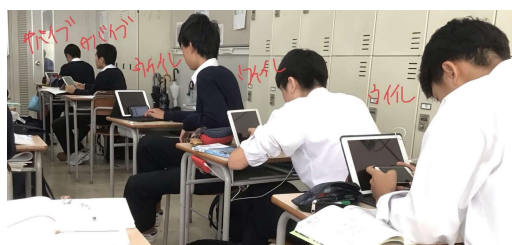
高1、2前半

日比谷が心残りで初めは高校生活を楽しめるか不安だったが、そんな心配はすぐに消えた。自由な校風と学生の賑やかで騒がしい雰囲気自分が合っていて、おかげで毎日が一瞬で楽しくなった。仲のいい友達もでき、授業を聞かずにゲームをやったり放課後の教室でチャンバラもした。長期休みには一緒にディズニーにも行き充実した1年生だった。高校に入ってから英数の2科目を葛西でとり続けた。特に数学はその先取りが効いて、学校の授業で躓くことはなかった。そんな年度の終わり、コロナウイルスの影響で学校は急遽休校になってしまった。



↑放課後の教室で気配斬り(右の剣士が筆者)

↓高校での授業風景(後ろから二番目が筆者)



結局2年の6月まで、対面授業は再開されなかった。自学課題は全科目配信されていたが、数物化だけやっていた。しかし授業再開直後、無機化学の膨大な知識量に圧倒され、物理の意味不明な公式暗記に意味を見出せず、物化と決別。その後は授業についていくくらいはするもののこれといった勉強はしていなかった。現代文は初めから聞いてなかったが、古文は高1でやった文法などで問題が解けるのが楽しくなっ

て聞いていたw。英数も高1同様苦労しなかったのが悪く働き、自分の現状に危機感を感じるのが遅れた。葛西教室の元教務の篠塚さんに物化いずれかの先取りを勧められたとき化学を自学でやると言ったが、結局逃げてしまった。ここに受験の本質があったのだと思う。

高2後半

高2の秋、入学当初こそ学年で見ても上位の順位だった自分は、完全にだらけて低空飛行していた。この時期担任との志望校決定の三者面談があり、そこで最難関を目指すなら改めて気合を入れ直さないとはいけないと言われ、まずは高3から高入生も選考対象の選抜クラスに入ることを当面の目標にした。また志望校も理数系を極めるか国語も真面目にやるかの選択を迫られた結果、東工大を切って本格的に東大受験を決意した。先生はまだ間に合うギリギリのところで自分の勉強のモチベーションを取り戻してくれたと思う。一歩先は自称進学校の落ちこぼれの闇だった。大学受験は高校受験のように、3年生の途中から本気を出して合格できるほど甘くはない。それを経験していない盲目的な現役生のうちは、先輩や先生のアドバイスは素直に受けるのがいいのだ。

この時期になってくると何かがおかしいことに気づく。放課後教室で遊ぶやつはいない。逆に残って勉強する人が増えてくる。自分もそのできつつある受験生ムードを感じて焦らずにはいられなかった。この頃はできるやつほど残っていたからいい刺激を受けようと、塾のない日は学校に追い出されるまで残って、一緒に数学の問題を解いたり同じ空間でそれぞれ自習したりしていた。それでもまだ、物化に本腰を入れなかった。初めは単に苦手で逃げていたのが、そのつけが回って復習しなければならない単元も増え、とても手をつける気持ちになれなかった。結局2年生のうちは学校指定の選考基準の模試を国数英で押し切り順位としては30番台で終了、選抜クラス入りを果たした。

市川高校の選抜クラスの実態

中3で8クラス中1つ、高校で12クラス中2つある、校内模試等の成績上位者が入れるクラス。先生も当たりであることが多く、情報戦でも若干有利。志望校は東京一工または医学部がほとんどで、先行逃げ切り型の内進生が多い。最難関国公立などの実績の多くはこの2クラスから出る。校内学力構図：内進選抜>高入選抜>高入一般>内進一般(例外あり)



↑高2の修学旅行、赤レンガ倉庫にて(右手前が筆者)

受験ストーリー Scene#3 己と向き合って

衝撃（春）

市川の選抜クラスはガリ勉が多いわけでは全くなく、むしろ一番騒がしいくらいだ。それはむしろ強者の余裕の現れだと感じた。そんな奴らばかりだからこそ初めは錯覚させられたが、授業が始まってこいつらが市川で「本当にできるやつら」だとわからされた。もうほとんど完成してるやつら。ガチで目標にできるようなライバルが現れて、初め選抜に入っただけで喜んでた自分が恥ずかしかった。同時に心の中で、絶対にこいつらにどこかで追いついて同じ大学に行ってやると新たに決意した。ちょうどこの時期から、英語は渋谷の東大選抜クラスに変更し、物理も新しくとり始めた。英語は毎週ほとんど東大の過去問を用いた演習となり、中村先生に要約のコツも教えてもらい、東大英語の土台を作った。内藤先生は数学を用いて入試問題の物理現象を解き明かしていった。定量的な説明や考察の欠如こそが自分が学校で物理と決別した理由だったので、逆に今度は物理が面白くなり、また物理の勉強を再開できた。彼が僕の恩師#2である。

淡い希望からの絶望（夏）

学校の授業はもう必要な教科ばかりなので物理以外はしっかり受けていた。化学も有機分野に入ってから覚えることが少なくパズル感覚で学習を楽しむことができた。現代文や英語は東大志望者のみのクラスで、過去問演習の授業中心だったので形式に慣れていった。昔よりも論理ができてきた自分は論説文の解説も理解でき始めた。逆に古典は教材の文章内容が難しくなって少し萎えかけていたが、志望校別の放課後の講座をとって東大対策はしていた。数学もできる方な気でいたから、この調子なら東大合格できるのではと、希望が見えかけていた。6月に市川の数学科主任でゴリゴリ数学科出身の先生が作る実力考査があった。100点満点で、できるやつは完答も出る中、自分は10点だった。一気に自信をなくし自分は数学ができない側の人間な気がしてきた。追い打ちをかけたのは夏の冠模試だった。過去問対策をせず普通の模試のつもりで受けた自分は理科や数学の形式に慣れずに焦るまま文字通り終了した。気分は正直最悪だったが、ここで物化のサボりが逆に心の支えになった。判定が悪いのは物化をまだあまりやってないからで、全然まだ可能性はあると言い聞かせ、切り替えることができた。塾も英語はいいものの数学と物理は正直まだ全然楽しくなかった。数学は演習問題の難易度が上がり自分では歯が立たない問題も増えた。物理はサボっていた分新しいことだらけで、ついていくので必死だった。

確かな希望（秋）

だいぶ士気が下がっていた自分だったが、数学の授業が得意な求積に入り、再び自信を取り戻した。なんて単純なんだ！w 現代文の過去問は安定して20点前後がとれるようになってきた。「気づ



↑球技大会中の一コマ。右が筆者

き」がきた！古文は高1以来やっていなかった単語を再び始めた。文が読めなくなった原因がそこにあると感じたからだ。この頃はもう完全に物理の虜になっていた。塾の授業は毎週楽しみで、帰りが遅くなるなど苦じゃなかった。化学も楽しいと思ってやるとそこまで嫌ではなかった。そして迎えた秋の東大模試では、明らかに国数英は伸びが見えた。物化はまだまだ目標点には届かないものの、逆にその穴さえ埋めれば合格できるという夏よりかは現実的な希望が見えた。これから先、学校の授業もなくなるので、物化マスターになる決心をした。でも過去問には手をつけなかった。直前期にやる分がなくなると思った。まだ葛西の数学も渋谷の物理もついていくので精一杯だった。余裕なんて全くない。

不安と確信（冬）

もう学校の授業はなくなっていたが、友達と毎日自習室に行くように決めていた。20時まで残ったあと、帰りに葛西に寄ってあと1時間ダメ押しする、そんな日々を繰り返していた。12月に入ると、一気に本番が迫ってきているのを感じ、それまで以上に焦った。自分は抑えにするつもりの併願校さえも受からないのではという不安に襲われて苦しい。でもそれが全て吹き飛んだのが、数学の冬期講習だった。今までとは明らかに感覚が違って、問題の方針も見えるし、先生がやっていることもわかる。自分がそれまでやってきたことがカチッときた瞬間。阿部先生にも自分の答案を持って行った。「いいんじゃないですか??」それが聞きたかった！ありがとうございます、また先生のおかげで前に進めます。各科目が1つずつ自分の中で完成していくのを感じて、それまでは自分でもクラスメイトとの間に見えない実力の壁を感じていたのが、一気に「根拠のある」自信に繋がって確信できた。「これなら戦える」

調子を万全に（共通テスト直前期）

共通テストは問題は難しくないからこそ形式にとことん慣れて処理を早める練習をすることが肝要。このひたすら過去問や予備校が出す予想問題パックを解くのは、実は結構しんどい。選択式だから一気に点が飛んでいくし、自分の知識の穴もどんどん見つかる。自分は12月末から対策を始めたが、みんな揃って言うのは二次の対策のほうが楽しいということ。この時期になって自分はやっと無機化学と向き合った。でもむしろ嫌いな分野はここまで追い詰められないとできないのかもしれないw。化学の知識もさらって数学も念入りに時間配分の最終調整。前日も最後まで学校で仲間たちと励ましあった。



↑共通テスト直前、高3のクラスでクリスマスパーティー(サンタが筆者)

絶望の2日間（共通テスト）

1日目は全て文系科目。稼ぎに行く必要はないけど、ここで盛大に落とすと巻き返しがきかない。地理は練習より悪い気がするが、おそらく難化している。国語は何が起こったのかわからないほどの難化。できの感覚もない。毎休み時間、廊下で友達と集まっては沈黙。一番できるやつが口火を切るのを待つ。難化してね？の一言で、一気にみんな思っていたことを口にする。良かった、おれだけじゃなかった。得意な英語は密かに難化か形式の変更を願っていた。最悪の友達やw。結局英語は例年並みで、手応えもいつも通り。理系は全員、明日満点をとりよう！と意気込んで帰った。2日目の初手は数学、もちろん理系は満点を狙ってくる...がトラブル発生。明白な激難化に手が止まる。最上位しか高得点は厳しかった。理系は文系ほどの打撃は受けなかったものの、稼ぎポイントを失ったから最悪だ。これでは目標点にのらない、つまり国立の足切りが見えてくる。前日同様廊下で会議。みんな状況を確認め合ってメンタルをなんとか保って各々の教室に戻る。ラストの理科は物理は易化、化学はやや難化した感触で、手応えもそれに比例していた。こんな難しい共通テストはセンター時代も含めて初めてだ。帰り道は受験生の間で実質足切りのない東工大の名前が飛び交う。こんな気分で帰るはずじゃなかったのに。

共通テスト流行語：苦しい

耐え（共通テスト自己採点）

高校入試と同じ、青い顔で帰宅。取り敢えずひと段落して気が抜けるが、翌日学校で共テリサーチがあるから自己採点をしないとイケない。心の準備のために湯船に浸かることにしたが、あったまっているうちにどんどん悪い気がして怖くて出られなくなってしまった。結局0時過ぎにあがって深夜の採点がはじまった。母と妹をリビングに招集して解答速報を読み上げてもらう。各小問ごとに一喜一憂、発狂しながら進んでいく。あれ、悪くないんじゃない？全然耐えてる！蓋を開けてみたら、目標点には届いていないものの、難易度の割には良い点といえよう。嬉しいというよりホッとした気持ちのほうが大きかった。これでようやく東京大学を受験させてもらえる。

ちょっと休憩 ～祖母との約束～

私大1校目の約1週間前、いつものように葛西で自習していると母から緊急の連絡が入る。祖母が倒れて意識がないらしい。母は妹を置いて実家に帰るから直ぐに帰ってきてほしいと言われた。急いで家に帰るとちょうど、亡くなったことを電話で知らされた。入試を控えているから葬儀には行けなかったが、火葬される時に一緒に入れる手紙を書くことになる。そこにこう書いた。

「おれは今年、東京大学に行きます。」

休む間もなく全速前進（私大入試前半）

自分は将来の夢のためにも浪人は無意味だと思っていたから、どんな押さえになってもいくつもりでいた。それでもGMARCHは受けなかった。行く気がなかったから。押さえの東京理科大学は共テ利用と一般で2つ出願した。共テ後間を少し置いたらすぐに理科大本番だから、再び頭を二次に切り替える。若干手こずったが、すぐに感覚は戻ってきた。理科大の過去問を1年分解いたが、これは絶対にいける。共テ利用もマークミスがなければとれてるし緊張しないでいけそう。と思っていたが、当日は最初の私大というのもあって1科目めの数学は相当緊張した。そのせいで簡単な定義もど忘れ...なんて弱いんだ。最後まで受験ってものは本当に自分の弱さを痛感させてくれる。間に英語を挟んだのち学科別の数学。後半2つはメンタル的にも持ち直したか。でも1科目めがあるから全然安心できない。帰ったら一息つく暇もなく次の対策をしないと。

真の確信（私大入試後半）

残る唯一の私立は早稲田大学の先進理工だ。強気な出願だと自分でも思うが、正直他は眼中になかった。この時期になるともう東大の過去問とも並行して対策しなければいけない。それまでノータッチだった東大の物化の過去問。初めて解いてホッとする。良かった、伸びてる！ずっと問題集で勉強していたから過去問の点数に繋がっているか不安だったが、やっと真に確信できた。しかしここで初めて早稲田の過去問を解いて大きな誤算に気づく。相当難しい。難易度というよりかは時間との勝負で、形式がまるで違う。早稲田を捨てて東大に専念しようかとも考えたが、早稲田は押さえておきたいし、結局どちらも対策することにした。どちらも疎かになりうる賭けだった。英語の長文も内容が難解な理系の文章で、得意とは言えどこまで差をつけられるかわからない。数学は形式が東大と似ていて特別な対策はいらなかったが、物化は圧倒的处理速度が求められ、スピードを上げるのに苦

労した。本番は上手くいくと信じて会場に向かう。1科目めは数学。あれ、難化してる？でも確信が持てないから取り敢えず全力を尽くして2完と部分点狙い。終わって休憩時間に周りを見渡す。絶望の顔。よし、間違ってた。続く物化は過去問とは桁違いに難しく感じた。英語もいつもより読みにくい。本番の緊張感がそう感じさせたのか。でも自分はこういう時こそどうやって立ち向かえばいいか、高校入試から学んでいたから焦らない。やりきった。正直落ちた気はしないが、気分はスッキリしていた。もうゴールへの道が開けたからだ。



最後の直線（東大入試直前期）

ついに怪しい封筒が届いた。出てきたのは受験票。足切りを超えたということは盛大なマークミスはない、大丈夫。残された1週間半は2日単位で数学と理科の演習、復習を繰り返す。早稲田対策が効いて物化の処理速度も上がっていた。並行して毎日学校に行ってお現代文と古典の添削をしてもらう。感覚的な教科こそ最後までやるべきだと思った。遅くまで質問対応してくれる良い先生にも恵まれた。物化も目標点に届く年も出てきた。このまま突入できるかと思っていたら、事件は本番2日前に起きる。緊張が最高潮に達する中最後の数学の演習をすると、結果は大惨事。完全に自信を失ってしまった…。これ以上の精神的ダメージは良くないと、母の勧めで前日の理科の演習もやめて、関係ない問題を解いて残された時間を過ごした。でもこれが吉と出て自分の中で数学のハードルが下がった。自分は数学が苦手なんだから、高得点を目指さなくてもいい、最低限を押さえて他で稼ぐんだ！と楽な気持ちで本番に向かえた。

夢を掴む（東大入試）

1日目の朝、ご飯を食べて家を出ようとするおれに、母が言葉をかけた。

「東大を受験できているだけでも凄いことなんだよ。だから全力で楽しんできなさい。」

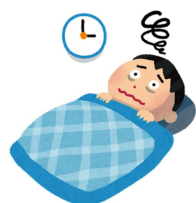
ありがとう、お母さん。まずは国語。問題が配られて開始待ちの時間、小声で自分に言い聞かせていた。今年はどんな面白い文章が出るのか楽しみだなあ。始まって軽く文章に目を通す。相性は悪くない、行ける！終始楽しむ気持ちで国語は乗り切った。次は数学だが、気持ちを上手くコントロールしてきたからあまり動揺しなかった。なんて面白い問題なんだ！むしろ過去一で落ち着いて拾えたかもしれない。

2完3半、自分の中では上出来だ。少しだけ耳に入ってしまった情報によると数学は難化したようだ。1日目を終えて感触は悪くない、いやむしろいいまであった。2日目、理科でこけなければ英語でカバーできる！2日目の初手は理科。とにかく失点を最小限に抑えることを目標にした。が解いていくうちに焦ってきた。全然解けない。難化か？それともおれが焦っているだけか？なら取れる最低限の問題だけでも拾おう。終わった、やばいかもしれない。昼休みに反省をした。そうか、試験を楽しむのを忘れていたから焦ったんだ。英語は気楽に受けよう、そう決めた。だがそれを許してくれないのが得意科目の弱点でもある。稼ぎたいからこそプレッシャーがかかる。さらに3年前のトラウマも頭をよぎる。不安定な状態で試験開始。1問目からとっつきにくい。でも時間があるから解ききって次へ進まない。リスニングも音が広がりすぎて聞き取りづらいし全然自信がない。小説も内容がいまいち読みにくい。また得意なはずの英語で落ちるわけにはいかない！必死に最後まで食らいついて試験終了。終わった直後は英語で力を出し切れず、悔しさが残る終わり方だった。取り敢えず、やっと休める。



揺れる心（発表待ち期間）

帰ってまず理科大と早稲田の可否を確認することにした。理科大は共テでとれていたけど落とされるのはしゃくだったから緊張した。結果は合格、でも余裕はなかったはずだ。危ない危ないw。早稲田は完全に落ちた気でいたからなんの躊躇いもなくサイトを開くとなんと合格していた！母と跳んで喜んだ。早稲田なら笑って行けそう。2日たって学校へ再現答案を書きに行った。仲の良い友達も何



人かいたが、みんなできる奴らだ。一緒に大学に通いたい。多分こいつらは大丈夫、後はおれ次第だ。同じ部屋で再現なんてしてたらお互いの解答がどうしても気になる。答えや出来に探りを入れているうちに不安が募る。やばい、おれ全然できてないか？日が経つにつれて東大やばい感と早稲田への愛着が強まる。続々と友達の進路が決定していくなか、東大京大は最後まで焦らされる。苦しい。9日の夜は、少し寝つきが悪かった。

栄冠

おれだって諦めた訳じゃないから10日はしっかり12時までには起きてパソコンの前で待機する。そしてページを更新。出た、合格者リスト！まずは最低点から確認すると全科類驚愕の前年度と比べ30点。まだあるかもしれない！でも逆に落ちていたら悔しさが大きい！番号を1つずつスクロールしていく。そしてついにそこに自分の番号はあった。その時の喜びや様子は表せないから書かない。隣人さん、昼間から騒いですいません。まず頭に浮かんだのは葛西教室でお世話になった面々。先生たち、心配かけました。そして、ありがとうございます。これでやっといい報告ができます。



模試結果	共通テスト		東大二次	
夏オープン B	地理B	79	共通テスト	741
夏実戦 D	国語	151	共テ換算点	90.5667/110
秋オープン D	近代以降の文章	93		
秋実戦 A	古文	31	国語	28
	漢文	27	外国語	96
	英語(リーディング)	98	数学	61
	英語(リスニング)	100	物理	15
	数ⅠA	71	化学	20
	数ⅡB	78	2次合計	220/440
	物理	90		
	化学	74	総合成績	310.5667/550

↑D.Sくんの栄冠の証です。貴重なデータをありがとうございます！

ちょっと休憩 ～祖母との約束・続～

東大合格が決まって数日後、ちょうど祖母の四十九日で実家に帰った。最期はそばにいられなかったけれど、きっと見ていてくれたはずだ。胸を張って挨拶する。

「おれは今年、東京大学に行きます。」

ちょっと休憩 ～受験後のやりとり～

S：自分 A：先生

A：いやぁ本当に良かったよ。君が第一志望に行くまでは葛西から離れられないと思ってたからねwww。

S：それはそれはすいませんねwww。
先生はおれのこと信じてくれてましたよね。

A：受かると思ってたからね。

S：いつからそう思ってたんですか？

A：高3の2学期くらいに持ってきた答案を見て「これは論理がしっかりしてきたからいい感じだな」って。

S：またまた～前からですよwww
先生はみなさんが思っている以上にしっかり見てくれている、偉大なものです。



受験結果

東京理科大学 理学部 応用数理化（共テ）：合格

東京理科大学 理学部 応用数理化（一般）：合格

早稲田大学 先進理工学部 応用物理学：合格

東京大学 理科一類：合格

これは非常に強気な出願の一例であり、決してむやみに真似しないようにしてください。

大学受験を振り返って

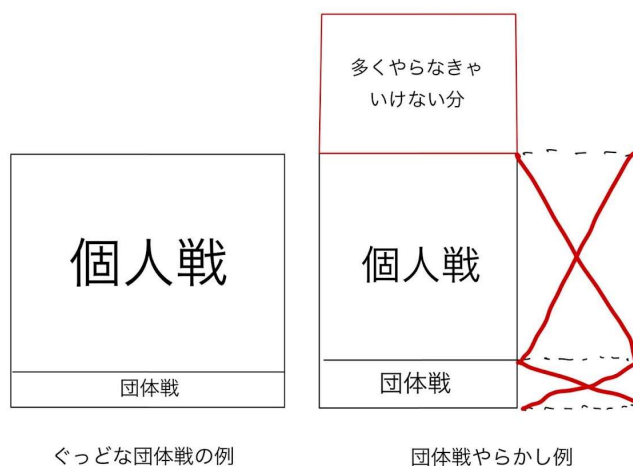
大学受験はベクトルです。全科目塾に行けばいい高校受験と違い自学が増え、みんなそれぞれのルートで合格を目指すようになります。どんなに遠回りしても、最終的に終点と第一志望と一致していればいいんです。現役生は先が見えません。それでも手探りでいつかの飛躍を信じて毎日地道な努力を続ける、それが唯一大学受験成功に繋がる道じゃないでしょうか。

ちょっと休憩 ～受験は団体戦か？～

「受験は団体戦」という言葉を聞いたことがあると思います。結局会場で戦う時は1人だし、某阿部先生のように受験は個人戦だというのも一理あります。実際、自分の友達からも不合格者は出ていて、自身も彼らを蹴落としている合格者の1人です。しかし周りの仲間は、本番で直接的に助けてくれこそしませんが、そこまでの過程で自分がどれだけ成長できるかに大きく関わってきます。自分は受験は個人戦でも団体戦でもあるということに、高校・大学受験を振り返って気づいてしまったのです！！それは一体どういうことか。

自分はいろんな勉強場所を試した。家の机、学校、葛西の自習室、マックw。駅のホームに居座って単語をやろうと考えていた時期もあった。でも結局落ち着いたのは、中3では葛西教室、高3では高校の自習室だった。なんでそうなったのか。答えは常に、自分と同じレベルを本気で目指してる人が一番多い環境だった。もちろん中3では葛西教室の方が中学校より高めあえる仲間に会えた。葛西の高校部は人数も減り志望校もバラバラだったので、高校の方がそういう意味でいい環境だと感じた。当時はそんなこと意識していなかったが、自分なりに何か感じ取っていたんだろう。

受験勉強の成果は、団体戦で固めた土台の上に個人戦で得た力を乗せたものだと思う。もちろん、圧倒的に比重が大きいのは個人の努力であることに違いはないが、環境の違いは同じ努力でもそれをどれだけ結果に還元できるかを左右すると思う。



わかりやすい参考の図

まあこれだとよく分かりませんねw。もっと身近なことを言いましょう。
(次のページへ続きますㄹ)

高3になったタイミングで、高校では高入生と内進生が混ざった。自分はみんなと仲良くしたいから誰かとわざわざ縁を切るようなことはなかったが、普段をどの連中と一番一緒に過ごすかは少し考えた。一緒に選抜入りを果たした高入の友達か、それとも全く知らない内進のクラスメイトか。初めはしばらく決めかねて間をふわふわしていた。でもしばらく一緒に過ごしていればそれぞれの色が見えてくる。片や模試で全国上位なのに、それでも手を止めずに上を目指し続ける奴ら、片や勉強はできるけどいまいちやる気や向上心が感じられない、正直最後までモチベーションを保てるか不安な奴ら。結局自分はそうして、休み時間や放課後の自由な時間、自習室で一緒に勉強したりする時間の多くを内進の奴らと過ごすとした。最初は自分ごときがこんな人たちと連んでいいのかとも思っていたが、彼らは最後まで刺激を与える身近な目標であってくれた。そして1年間は流れるようにすぎて、結果ははっきりと出た。高入の友達は単にダメだったり、友達にも言わずに志望を落としていたり、結局そいつらで東大に行ったのは自分だけだった。一方で連んでいた内進のほとんどは、ついこの前入学式で一緒に笑って写真を撮るか、それぞれの第一志望の医学部などに行くかした。

これをただの偶然として流すのは簡単だけど、もし本気で目指したい頂があるのだったら自分は言います。傷を舐め合ったり、なあなあでやっていく奴らじゃなくて、本気で刺激し合える奴らを見つけたら。人も環境も、自分で選べ。まあ最終的にどちらを取るかは自由なんですけどw

ちなみに自分は受験の専門家でもエキスパートでもなんでもありません。



↑市川の仲間達と武道館前にて(入学式)

ちょっと休憩 ～自分が思う受験の本質～

高校の先生がよくいう話に、受験は失敗しても今後の糧になるというのがあります。また人生のどこかで本気で何かに取り組むのが大切で、それが大学受験だということもあります。人は失敗して強くなります。次の成功へ繋がればいい。逆に失敗を知らない人間は弱い。学生のうちに、本番がくる前に、たくさん失敗を重ねてください。どんどん出てくる自分の弱いところを見つめ、向き合い、変えていく。受験はこれらの姿勢を教えてくれるものだと感じました。

受験にフライングはないけどタイムアップはある。今すぐ始めろ！

～完～

後半は自分がみなさんに残したいことを書きました。

後輩へちょこっとアドバイス

1. 模試は最適な昼食を試行錯誤する機会でもあります。何だと眠くなるのか、お腹が減るのか。あらゆる可能性を試した上で本番は試験場に昼食を持ち込んでください。



2. 試験中に問題が難化した気がする、そんなときも慌てないで。周りも同じことを思っています。だから特別なことをする必要はない、ただ取れる問題を落とさない。それで十分合格は狙えます。ただ、これの一番難しいところは問題が難化したと自分で断定することです。そのためには普段から努力を積んで「自分ができないなら周りもできていない」と試験中に判断できるように圧倒的な、'根拠のある'自信をつけることです。

教科ごとの学習法

これは自分の例を示しているだけで、必ず成功するとは限りません。あくまで参考程度に。文系、物化地理選択以外の、すいませんw。



現代文：対策は高3からで十分可能で、量をこなす必要はありません。論説文は等価表現を追っていった、それらの繋がりを因果を意識して論理的に見てください。慣れればそのまま解答欄に当てはまるような繋がりが見えるはずです。小説は頭の中でストーリーを情景的に創ってってください。あとはドラマを見ながら次の台詞を予想するような感覚です。（抽象的すいませんw）

古典：最低限の文法や句形は覚えて、あとやるべきなのは単語だけです。これを完璧にした後は、文章の演習を通して、知っている単語を繋げていったストーリーを作る練習をすれば十分です。

数学：1、2年の前半くらいまではチャートやFocusGoldなどで土台作りを。周りの数強を見て焦る必要はありません。レベルの高い問題をやる必要はないけど、先取りはおすすめ。その先はレベルをあげた問題を解いて、苦手が見つかったらその都度戻って潰す、の繰り返しです。自分で何ができないかわからないときは、先生に相談するといいです。また、どの段階でも丁寧に記述することを心掛けてください。実際に求められているのは答えだけであっても、自分で演習するときは普段から答案を記述する練習をしておくことで、後から絶対に楽になってきます。こればかりはすぐには身につかないと思います。

英語：古典と同じです。文法と単語は自分でやって、後は演習を通して文脈や意味をとるコツを掴んでいってくれたらと思います。（と帰国生が申しておりますw）



物理：学校の授業やエッセンスの類を用いた独学で上手くいっているなら無理は言いませんが、現象を試験中にイメージしたり、いきなり保存則を思いつくのは無理がありませんか？個人的には微積を用いた学習を勧めます。内藤先生の授業を受けてみてはどうですか。きっと物理が全く別の科目に見えてくるとと思います。

化学：物理と比べ比較的独学がしやすいと感じるので、高2から先取りして進めることを勧めます。初めはセミナーなどの基本的な問題から始めて、自信がついたら重要問題集がいいです。過去問より前はこれで十分です。ただ自分のように、無機に取っ付けないでいる人は、下に紹介する本を使うと勉強が楽しくなるかもです。

地理：一通り知識をインプットした後はセンターの過去問でアウトプット、穴のある分野を見つけて潰す、これでおしまいです。やれば獲れます。

教科ごとのおすすめの参考書

文系、物化地理選択以外の人、すいません。

現代文：過去問

古典：古文単語 3 1 5（学校指定のものでいい）

理系数学：やさしい理系数学（チャート系の次のステップに）

英語：鉄壁（学校指定のものでいい）

物理：新物理入門、新物理入門問題演習

化学：重要問題集、原点からの無機化学

東大受験を考えている君へ

もしあなたが東大を考えているなら、大事なことは「まず苦手を作らない、その上で得意を作る」です。二次試験の問題は難しいため、得意科目でも大きく引き離すことは望めないし、逆に弱い科目で失う点数は命取りになります。文理問わず、それぞれ数学や国語とも真剣に向き合わなければいけません。共通テストも気が抜けません。足切りもあるし、点数は圧縮されるとは言え合否に影響する、何より二次に向けた気持ちのモチように響きます。理科基礎や社会にも、「捨てる」などという選択肢は残されていないのです。その分、合格の頂では最高の達成感も待っています。是非、挑戦してください。

夢

今まで先輩たちが書いていて憧れた合格体験記をついに自分が書く側になれてとても光栄です。最後に僕の夢を共有します。僕は将来、教師になるつもりです。人生の岐路で恩師に出会えると、そう志してしまうものなんでしょうか。みなさんも僕に続いて、夢を追いかける大学生になれるよう、頑張ってください。



↑高1からの仲良しメンバーとディズニー。一番左が筆者。

Bon voyage!!

「ごあいさつ」

教務スタッフ 小野友輔

はじめまして！4月から葛西教室のスタッフになりました東京理科大学2年の小野友輔です！中学生の頃、皆さんと同じように葛西教室の先生方の授業を受けていました。また葛西教室に戻ってくることができてとてもうれしいです。まだまだわからないことが多いので早く慣れていかないといけないなと思ってます。これからよろしくお願いします！



ところで、皆さん、部活との両立はうまくできていますか？私は小学1年生から高校3年生まで器械体操をしていました。特に中学生の時は家からかなり遠い練習場所に通っていたので帰宅時間も遅く、勉強との両立がとても大変でした。なので家から練習場所に行く間の電車での時間をうまく有効活用しました。電車の中だとできることは限られてしまいますよね。なので私はいつでもどこでも見られるようなまとめノートを作っていました。自分的にはその勉強方法があっていたらしく、暗記や理解を深めるのに役立ちました。また、リスニングの勉強も電車の中で行っていました。（よく英語のラジオを聴いていた記憶があります）皆さんの中にも塾までの移動に時間がかかる人もいると思うのでこの機会に電車の中のできる勉強を見直してみてください！



最後に少しだけ自分の受験話をしようかなと思います。実は高校受験の時も大学受験の時も同じような失敗をしました。それは「受かった後、気が抜ける」です。

合格発表で受かったことがわかったと誰でもうれしいですよね。でも私は大学受験の時、志望校に受かってほっとしてしまったのか、ここから試験勉強がおろそかになっていきました…。実際、その後の試験は落ちてしまいました。その時点では、気が抜けたからしょうがないと思っていたんだと思います。

月日が経って、落ちた試験の点数が開示されたものが届きました。見てみると、なんと合格最低点の1点下だったのです…！

見たときは本当に驚きました。それと同時に急に悔しさがこみ上げてきました。気を抜くとそれがそのまま結果に出てくることを痛感した瞬間でした。

こんな話をしたのは皆さんに絶対同じ経験をしてほしくないからです！志望校に受かってよかったと思うことは悪いことではないですが、受かった後にしっかり切り替えて次の試験に向けて再スタートできることが大切です！当たり前のことを言っているかもしれませんが、これがしっかりできる人が受かっていくのだと思います。この人こんな話してたなーと頭の片隅に入れてくれるとうれしいです！ここまで読んでくださりありがとうございました！



先輩方からのメッセージ、いかがだったでしょうか。お二人とも、自分の体験をもとに後輩に伝えたいことを書いてくれました。悔いなく受験を終えるために、ぜひとも先輩の言葉を素直に受け取り、糧にしていってほしいなと思います。そしていつか、みなさんの合格体験記が読める日を心待ちにしています☆



月	日	曜	受付	本科生スケジュール					本科生以外の方対象のイベントなど	
4	26	火	14 ~ 22							
	27	水	14 ~ 22							
	28	木		休室						
	29	金	14 ~ 22							
	30	土	14 ~ 22							
5	1	日		休室						
	2	月		休室						
	3	火		休室						
	4	水		休室						
	5	木		休室						
	6	金		休室						
	7	土	14 ~ 22	休講						
	8	日	10 ~ 20	5月度①		2V 4月度 月例テスト	1V 4月度 月例テスト			
	9	月	14 ~ 22							
	10	火	14 ~ 22							
	11	水	14 ~ 22							
	12	木		休室						
	13	金	14 ~ 22							
	14	土	14 ~ 22							
	15	日	10 ~ 20	5月度②						
	16	月	14 ~ 22							
	17	火	14 ~ 22							
	18	水	14 ~ 22							
	19	木		休室						
	20	金	14 ~ 22							
	21	土	14 ~ 22							
	22	日	10 ~ 20	5月度③						
	23	月	14 ~ 22							
	24	火	14 ~ 22							
	25	水	14 ~ 22							
	26	木		休室						
	27	金	14 ~ 22							
	28	土	14 ~ 22							
	29	日	10 ~ 20	6月度①	3K 5月度 月例テスト	2K 5月度 月例テスト	2V 5月度 月例テスト	1V 5月度 月例テスト		
	30	月	14 ~ 22							
	31	火	14 ~ 22							
6	1	水	14 ~ 22							
	2	木		休室						
	3	金	14 ~ 22							
	4	土	14 ~ 22							